

資源評価調査委託事業
スルメイカ漁場一斉調査（要約）

今村豊

目 的

太平洋海域におけるイカ類資源の有効利用、イカ類漁業の操業の効率化と経営安定に寄与するため、スルメイカの漁況予報に必要な分布・回遊、成長・成熟および海洋環境などに関する資料を収集する。

材料と方法

6月と9月に本県東方の太平洋海域において、下記調査を行った。なお、本調査は、北海道沖太平洋沿岸のイカ類の漁海況予報を目的に、本県のほか、北海道区水産研究所、北海道、岩手県、宮城県の関係県がと東北にある4道県が分担して実施した。

1. 第一次調査

- (1) 期 間：平成28年6月1日から6月7日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：太平洋沖合海域35地点について、seabird社製CTD・911plusを使用して表層から最深1000mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、14地点において2連式4台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。

2. 第二次調査

- (1) 期 間：平成28年9月1日から9月4日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：太平洋沖合海域32地点について、seabird社製CTD・911plusを使用して表層から最深1000mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、8地点において2連式4台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。

結 果

1. 第一次調査

津軽暖流の水温は、0m層が「平年並み」、50m層が「やや高い」、100m層が「かなり高い」、水塊深度は「平年並み」、東方への張り出しが「平年並み」という結果であった。

また、14地点中6地点でスルメイカが漁獲され、スルメイカの有漁率は42.9%であった。漁獲されたスルメイカの外套長は15cmから17cmで、有漁地点の漁獲尾数は1尾から2尾、1台（1ライン）・1時間当たりのCPUEは0.13から0.25であった。

2. 第二次調査

津軽暖流の水温は、0m層、50m層、100m層共に「平年並み」、水塊深度は「やや浅い」、東方への張り出しが「平年並み」という結果であった。

8地点中6地点でイカ類が漁獲された。8地点中2地点でスルメイカ、4地点でアカイカが漁獲され、スルメイカの有漁率は25.0%、アカイカの有漁率は50.0%であった。漁獲されたスルメイカの外套長は15cmから23cmで、有漁地点の漁獲尾数は1尾から87尾、1台（1ライン）・1時間当たりのCPUEは0.08から7.25であった。また、アカイカの外套長は17cmから31cmで、有漁地点の漁獲尾数は1尾から178尾、1台（1ライン）・1時間当たりのCPUEは0.08から14.83であった。

発表誌：平成28年度イカ類漁場開発調査資料第41号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集 平成29年7月